

Q もし浜岡原子力発電所で原子力災害が発生して、避難が必要になったら、どこへ避難するのですか?



A

静岡県が策定した避難計画※に、御前崎市、牧之原市、掛川市及び菊川市をはじめ、発電所周辺11市町の住民の避難先が定められています。

浜岡原子力発電所で原子力災害が発生し、避難が必要になったときには、まず静岡県内の市町や東海地方などの近県が、避難先になります【下図の避難先(1)】。

さらに、大規模地震などの災害と原子力災害との同時発生などにより、避難先(1)に避難できないときには、関東甲信地方や北陸地方の都県が避難先になります【下図の避難先(2)】。

お住まいの地域の避難先の具体的な市区町村名など、詳しい情報については、県ホームページに掲載されている避難計画や静岡県原子力防災ポータルなどにより確認できます。

(<http://shizuoka.force.com/shizuokandp>) ※浜岡地域原子力災害広域避難計画(平成28年3月策定)



こちらのQRコードからも、
静岡県原子力防災ポータルに
アクセスできます!



◀ 広域避難のイメージ

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成30年7月～9月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成30年12月27日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局

静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス: <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス: <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

Shizuoka

原子力だより No. 179



浜岡原子力発電所 防波壁



原子力防災センター 設備機械室

県外避難先の自治体関係者が、本県の原子力防災施設等の視察を行いました。



浜岡原子力発電所 緊急時対策所



原子力防災センター 原子力災害合同対策協議会室

浜岡原子力発電所で原子力災害が発生した場合に備えた広域避難計画では、県内の避難先に加え、県外の避難先として12都県349市区町村を定めています。浜岡原子力発電所周辺の市町や静岡県は、県外避難先自治体の関係者を招き、原子力防災センター等の視察や、意見交換を行う事業を実施し、交流を深めています。

平成30年7月から9月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成30年7月～9月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

平成30年7月～9月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

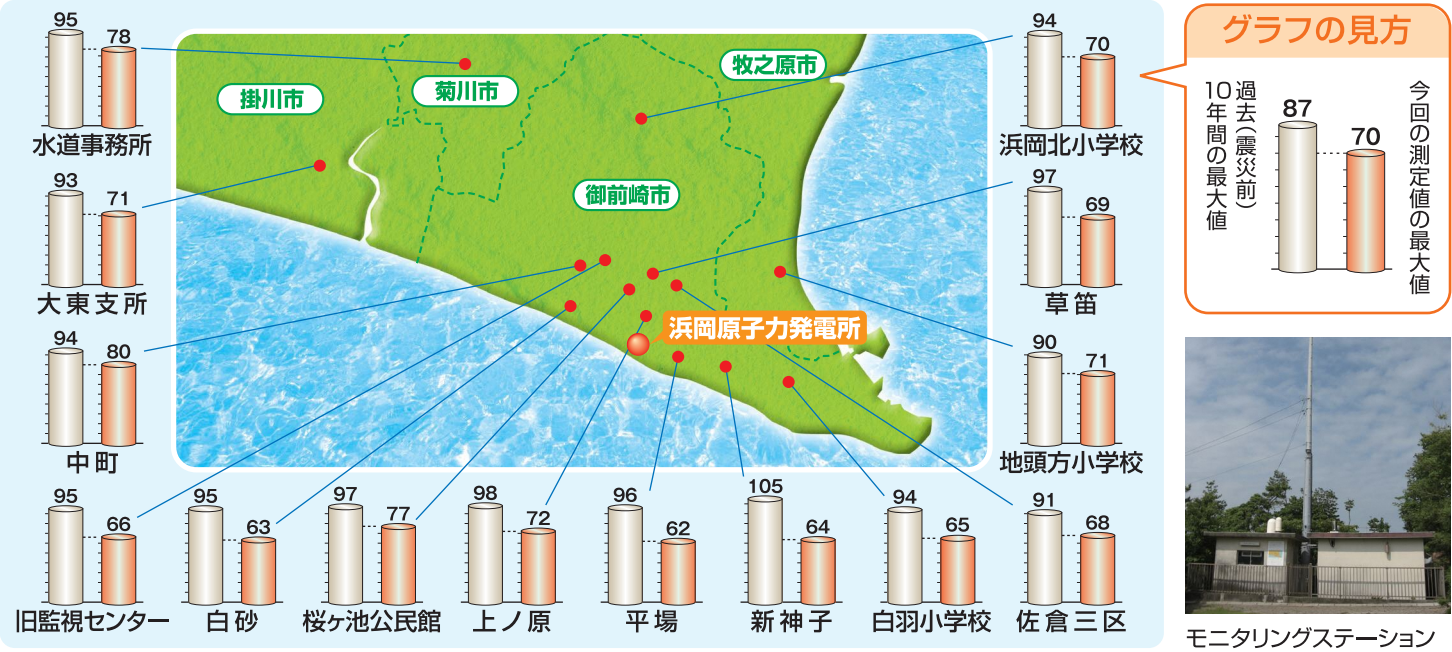
浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

空間の放射線の測定

▶1時間当たりの放射線量(線量率)

単位：ナノグレイ/時

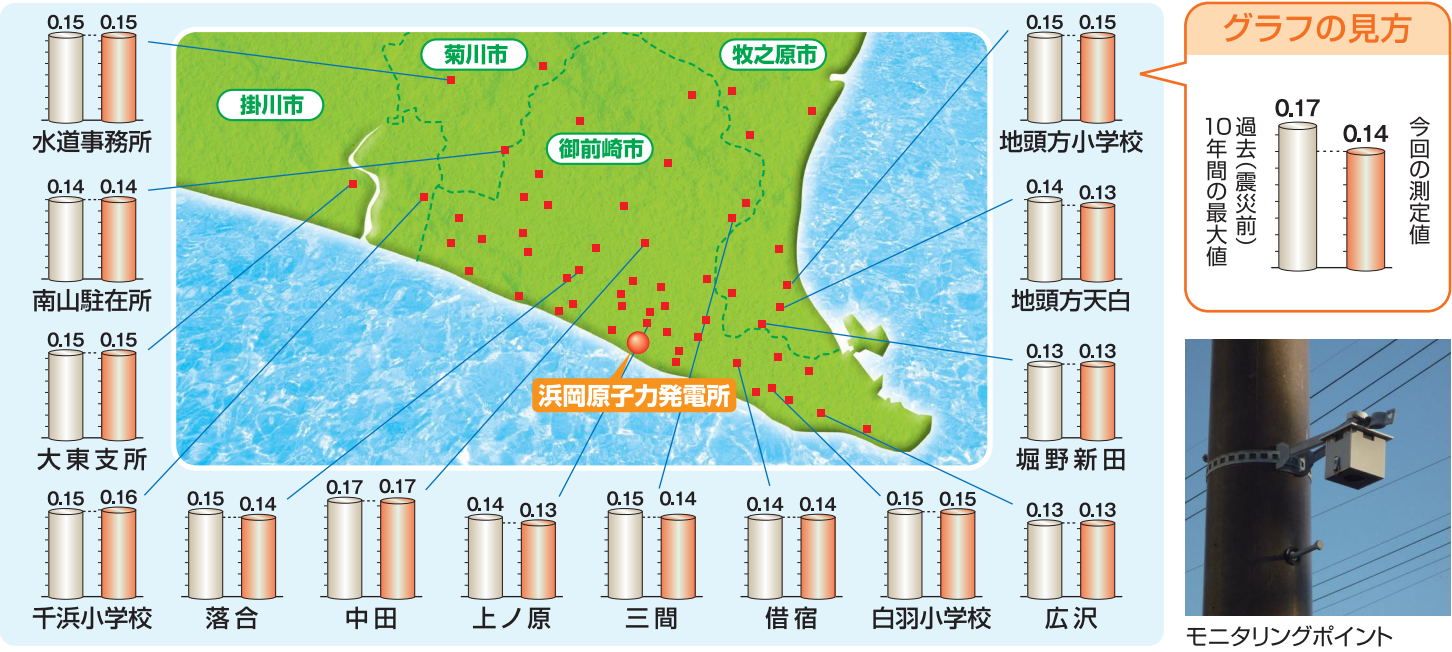
モニタリングステーション(14か所)において、空間の放射線が1時間当たりどのくらいかを連続して測定しています。平成30年7月から9月で過去(震災前)10年間の最大値を超えた地点はありませんでした。



▶3か月間の放射線量(積算線量)

単位：ミリグレイ/90日

57か所のモニタリングポイントにおいて、空間の放射線が平成30年7月から9月の3か月間(90日換算)でどのくらいになるかを測定しました。



放射能調査に用いる単位

- グレイ(Gy)……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト(Sv)……吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル(Bq)……放射能の量を表す単位

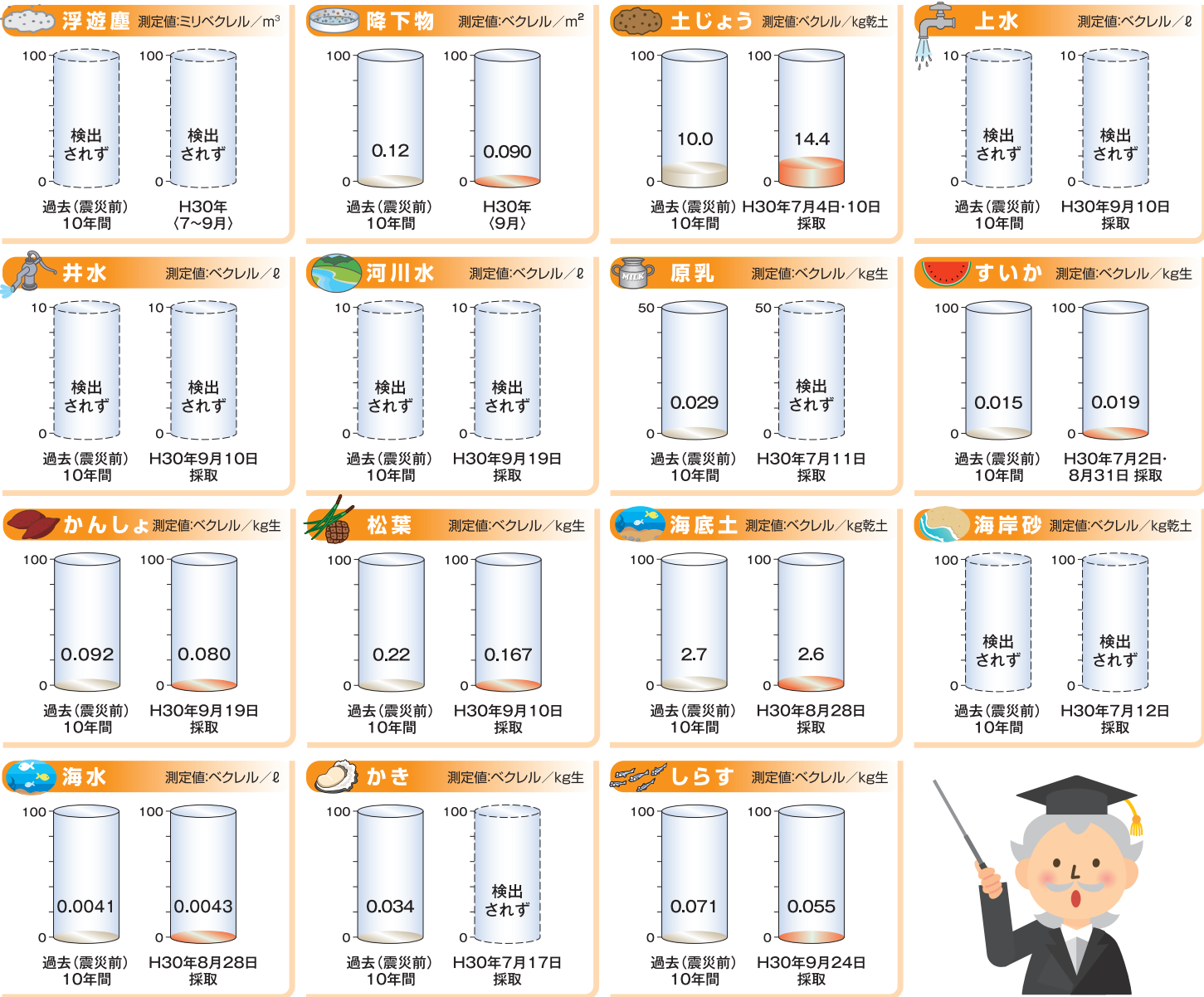
- 【参考】
- ミリ(m)……1/1,000 千分の1
 - マイクロ(μ)……1/1,000,000 百万分の1
 - ナノ(n)……1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。平成30年7月から9月の間に測定した試料の一部※は、過去(震災前)10年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力(株)福島第一原子力発電所の影響によるものと推定しました。

※測定した15試料92検体のうち、3試料4検体

▶代表的な試料の放射性セシウム(放射性セシウム)の測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**約0.03ミリシーベルト/年**と推計されます※。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べ十分に低い値です。

※「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)から引用する摂取量に基づき推計
《参考》食品衛生法に基づく食品中の放射性物質基準値 … 一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【10ベクレル/l】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。
これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量約0.03ミリシーベルト/年は、とても低い量であることが分かります。

